

期待の新人現る

「先祖から受け継いできた農地が廃れてしまうのはもったいないと思いました」大和町の高橋春陽(はるひ)さん(21)は、自身で作付けしたネギ畑を見ながら、農業の道を選んだ理由をそう話した。

春陽さんは、2021年3月に農業大学校を卒業し、同年4月から祖父の農地(250a)を借りて、ネギと稲作の複合経営を開始した。本年1月には、農業次世代人材投資資金(経営開始型)の支給も受けられることになり、地域から期待を寄せられている若者だ。

高校生まではプログラマーを目指して工学系の勉強をしていたが、高齢になっても農地を守り続ける祖父母の姿を見て就農を決意。初めて出荷したネギが店頭並び、お客さんが手に取ってくれた時は「ありがたい」と感謝の気持ちが生まれたという。



当面はネギの作付面積を増やして、経営規模拡大と収益の安定を目指す。機械の導入には、農業次世代人材投資資金を充てるつもりだ。

春陽さんは「就農してから道具や土質など学校との違いを痛感しています。でも、課題を一つずつクリアして、いつかハウス栽培や

加工品の販売にも挑戦したいです」と目を輝かせた。